

熊野権現社くまのぐんげん 石段ありけ窓あり
 信濃上野國堺しんのうえのくにさかい 標抗あり
 幸社三本末衣多し
 殿神樂

刻石坂十八町
坂險難
けまれのぞた
築屋ありと
種よりと
づり

万葉

望み早うすひの坂に上りて妹を急ぐをよめりて

讀人志

飛
く
く
く
く

之
其
成

狂井泥をまじくせぬ板嶺ふゆをけ新めく穂ひちをふふ
 山かきあつてまじくせぬ河を阻つて南と海でまじく
 離まじくせぬ新めりむくまじくまの月お郷ふ帰らそ
 新をあぐり道ばれいあまこちまじくまじくいふくを
 一盞の酒は酔ふと道不倒まじく泥のでく形くむ米
 ぬつてまじく推現をおく山中村より別石坂をまじく
 穂ひち怕美ふあまじく蕨餅を流すこけけより下り坂十八町

路^{みち}はう^をい^てた^ら坂^{さか}の^の頭^{かぶ}の^の所^{ところ}

上野坂

松井田中^{まつい だちゅう}で二里半^{ふたりにはん}南^{みなみ}駅^{えき}五所^{ごしょ}許^{あき}民^{たみ}衆^{しゆう}相^{あひ}對^{たい}して巷^{ちやう}をふに

横川 百合

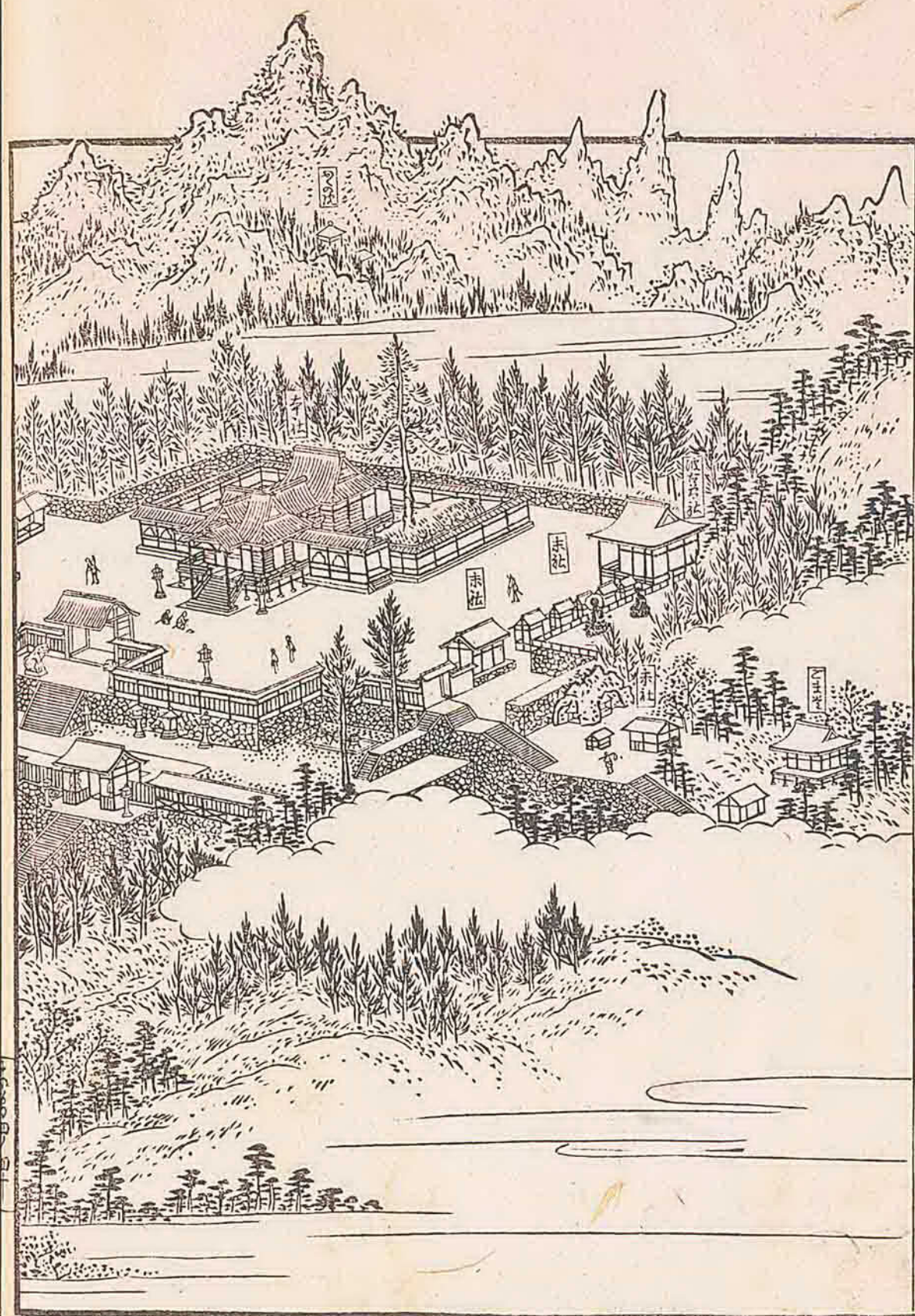
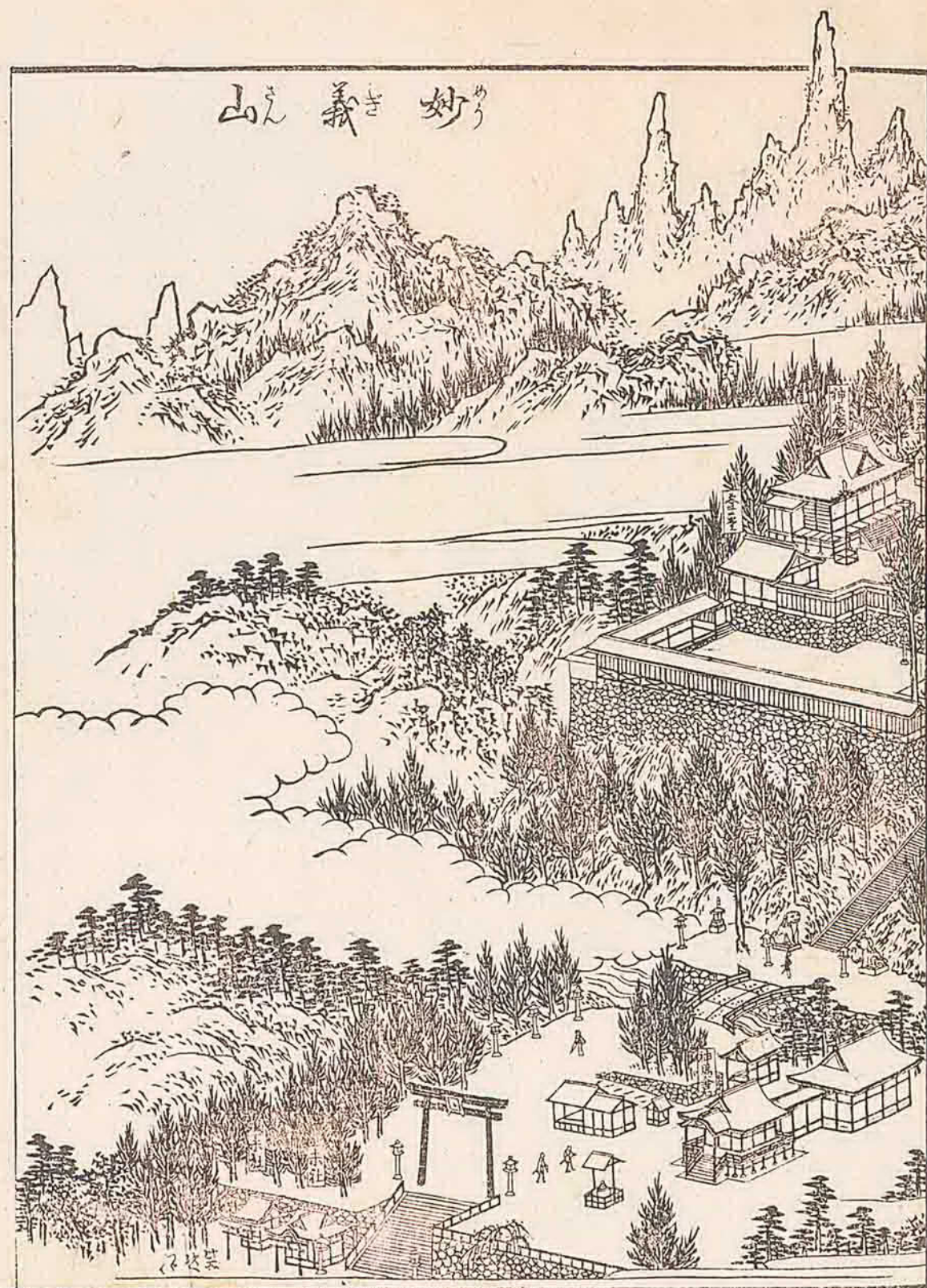
唯月川の流をびりあふ着街樓ありこゆ板橋川の
市園所とふ女免符高疣の疥癩ありこゆ板橋川の
足箱石とふ古書みえくば世傳のりひ傳の幸伝と

魚射山いぬさ

[illegible]

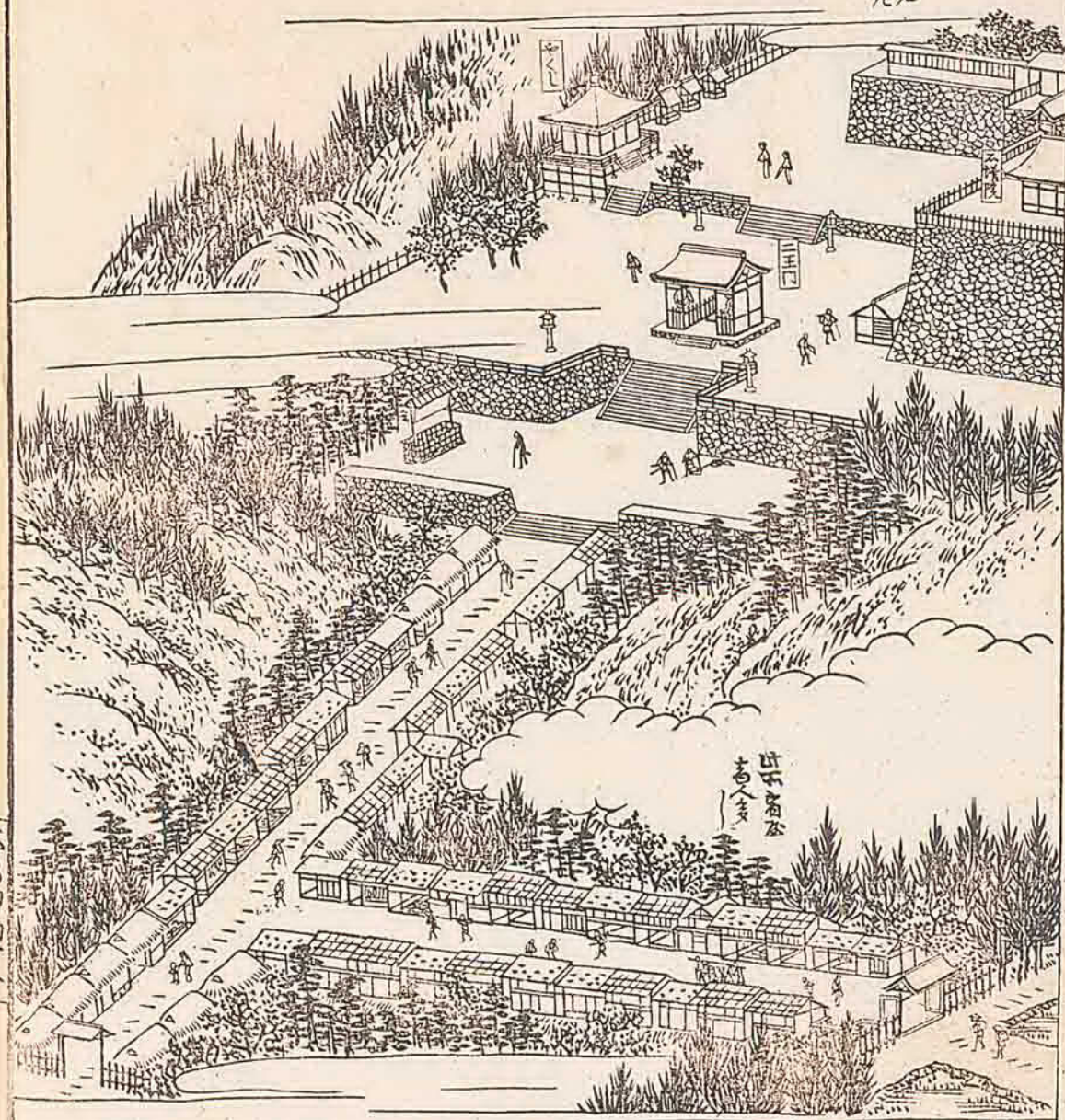
上
まろいど
松井田
野

安中^{あんちゆう}まで一里三十所^{さんじゅうしよ}け歌^{うた}を松枝^{まつえだ}ともり
八^や懐^{なつ}文^{ぶん}の角^{かく}一^{いち}落^{おち}宿^{しゆく}中^{ちゆう}ふあり是^{こゝ}より妙^{めう}義^ぎ山^{さん}より赴^{おもむ}く



妙義 惣門

名所先



白雲山高顯院 俗小妙義山と号し松井田より入る又横川

奉社妙義大権現 社殿瓦葺く

波古曾神社 山地主神

天神宮 太神宮 末社八幡宮

神樂殿 繪馬舎 護摩堂

辨財天社 飯綱宮 觀世音 欽喜天

飯綱不動 巖窟 大荒神 中門 兩脇あり

廻廊 巫女列を系諸人母神託を 石階 百六十五段

御湯釜 三ツ 隨身門 左右小随所立 石階 百段

鳥居 額白雲山 辨財天社 稲荷社 大黒天 人丸社

抱養神 藥師堂 石階 二十八段 奉坊あり 橋 溪川より

石階 九段 神馬舎 下段あり 惣門 額高顯院

そ神島山と波古曾神社姓古より此地主神より延喜帝の

淨土延曆寺第十二の座主法性坊の意僧正は清和天皇御宇相
ゆふあれた遷移をうけ奉に夢ひ岳を退きけし妙義山小南岳
一峰は折は清和天皇御宇相ひ岳を退きけし妙義山小南岳
嶽より遷化の後ふ妙義推現と崇光貴賤の尊信意をば
特小今より百五十年前奇特ありてそれより宮舎殿閣壯麗
再興ありて日夜詣人絶る奉ふ一平坊と石塔院と稱して天台宗
東叡山は属に例案と九月九日山中に八枚七片あり何事も日尋
五尋より有奥院と奉社より廿八所あり岩角をばひひを
大日尊安仁門の縁舎と武町新形ありてふ岩に書院を
洞ひ詣する人の宿とてまのひと一夢も百餘人も泊りて旅あり
いそふ形一霊ありとて関東の人民も訪りてその教湯作らる
にありて清人多く海内尚書の霊地ありてけふのすくせふあり
たは奇異の分野るわ神靈ある奉むとてめふ名ふはわらふ

霊ありぬる新まふありありと我もあはれなる

琵琶窪

平北より宮の窪とあり

原一村

神明のあり海ありは遊郷細細繩を

松井田をまき遠坂の神明あり是のうへは遠坂をまき

義山へ詣するは横川より入るてけけくゆる又江戸より詣する人も

あはれなるは横川へ出たりて琵琶の窪に板を越く上流の果

山王村は山王の廟ありて八幸本村は親善堂ありて原一村

一里山むらむらとて安中の駅ありて

板鼻まで三十町は駅を板倉伊藤守彦の領地ありて民家

十餘所あり其外左右あり

は駅をこく碓日川ありて沢中宿の出越れりて又け川をこく

あはれなる安中川より中宿宿まきとて善果山の岸根は碓日

川流る意流たりと善果山と切きとてわくれ崖岩とく

安中野

上野 極鼻

高寄とくさへ中ちゆうで一里三十所いちりさんじゅうしよは狭民居三田所せゐんきさんでんしよをうう相對あひまへして
其餘そのよを散立さんざんに

貫前神社 延喜式内大名神 極鼻の南の高き山あり一の宮と云

八幡宮はつぱんぐうのくまのうしろにありひう八幡を所義家奥の安信貞任宗任伝成

八月十五日

奉社中央應神天皇
 東神功皇后
 西仲哀天皇
 瓊瓊杵尊

神樂殿中門ハナカド出デ神カミありハナカド惣門ソウモン安ヤス二天ニテン末社マツダ山ヤマ王オウ武内タケナリ其外ソノト多タ

本地堂
孫陀二子

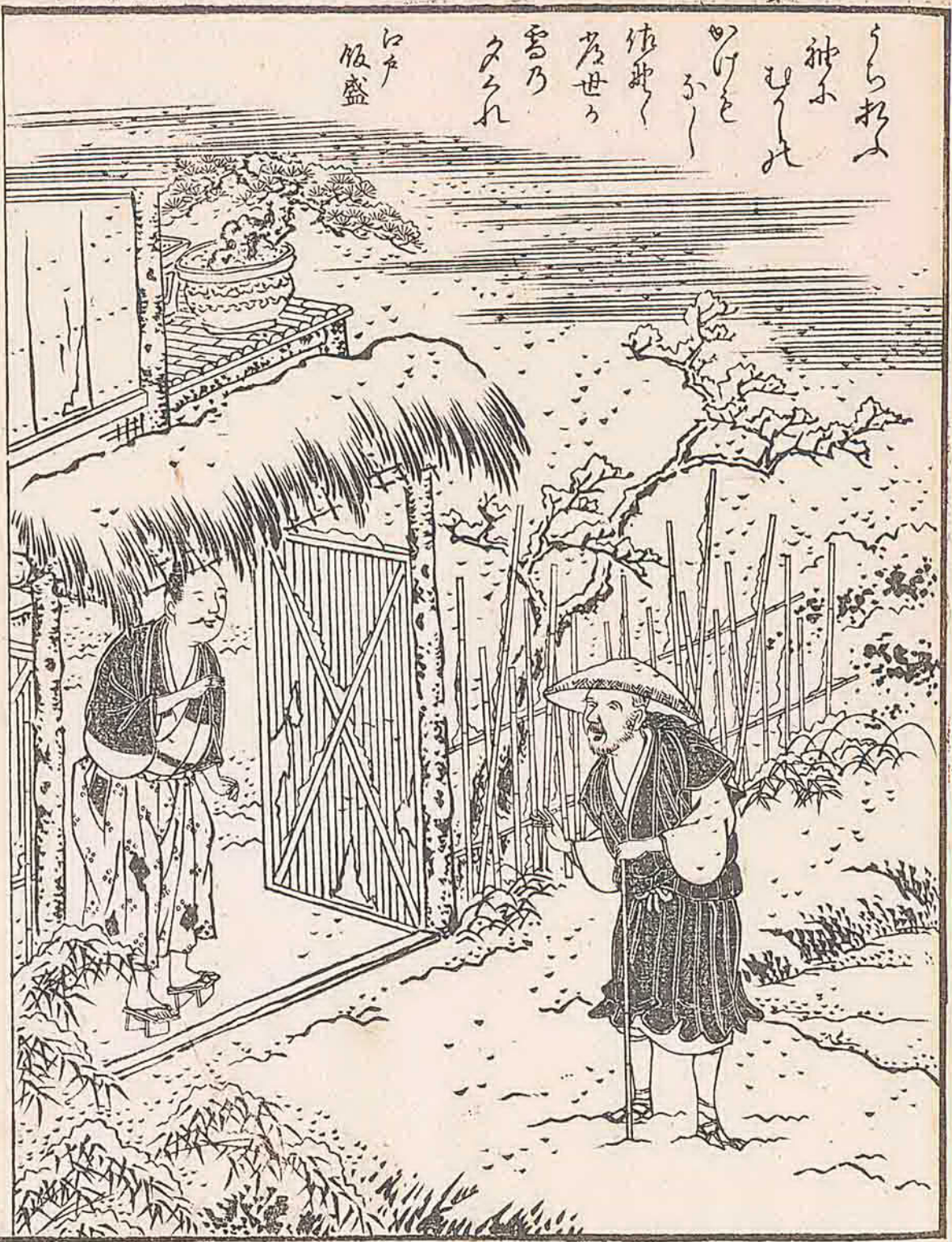
若宮八幡宮 上豊岡ふあり八幡を即腰掛石の回沿とて例祭三月十五日

鳥門河原川ともいひうきあり

板鼻を過ぐ八幡ひく炭塚村土俵回権現の宮あつ豊志村を

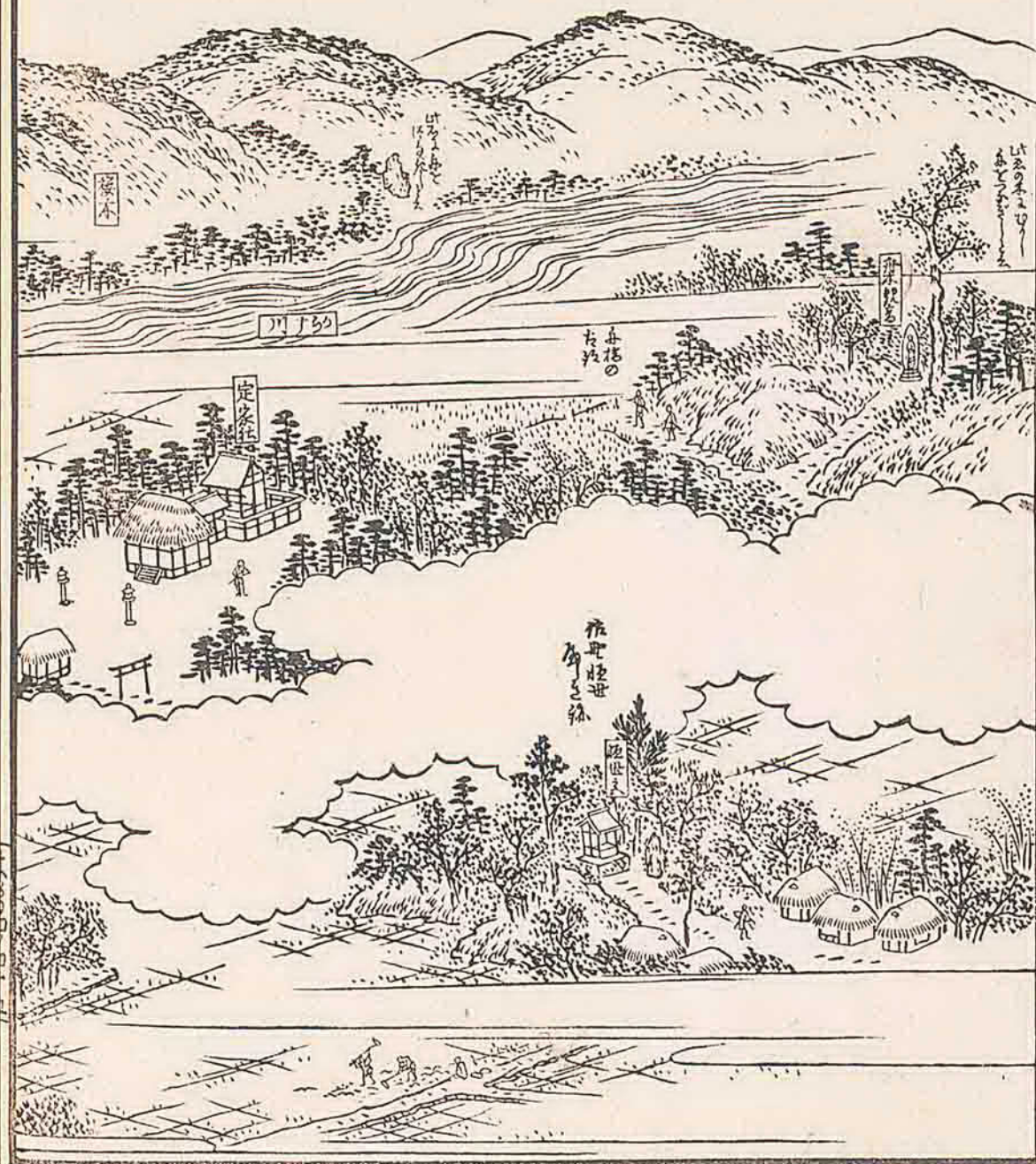
経^へく見^ととせは高^{たう}寿^{しう}川^{せん}より遠^{とろ}ふ向^むふ所^{ところ}にてせは日^ひを原^{はら}野^の

此茅の露くさようはちゆくよもぐ樹きののばくさと雲くもと峯みね此松ま風ふうふくとくく山の

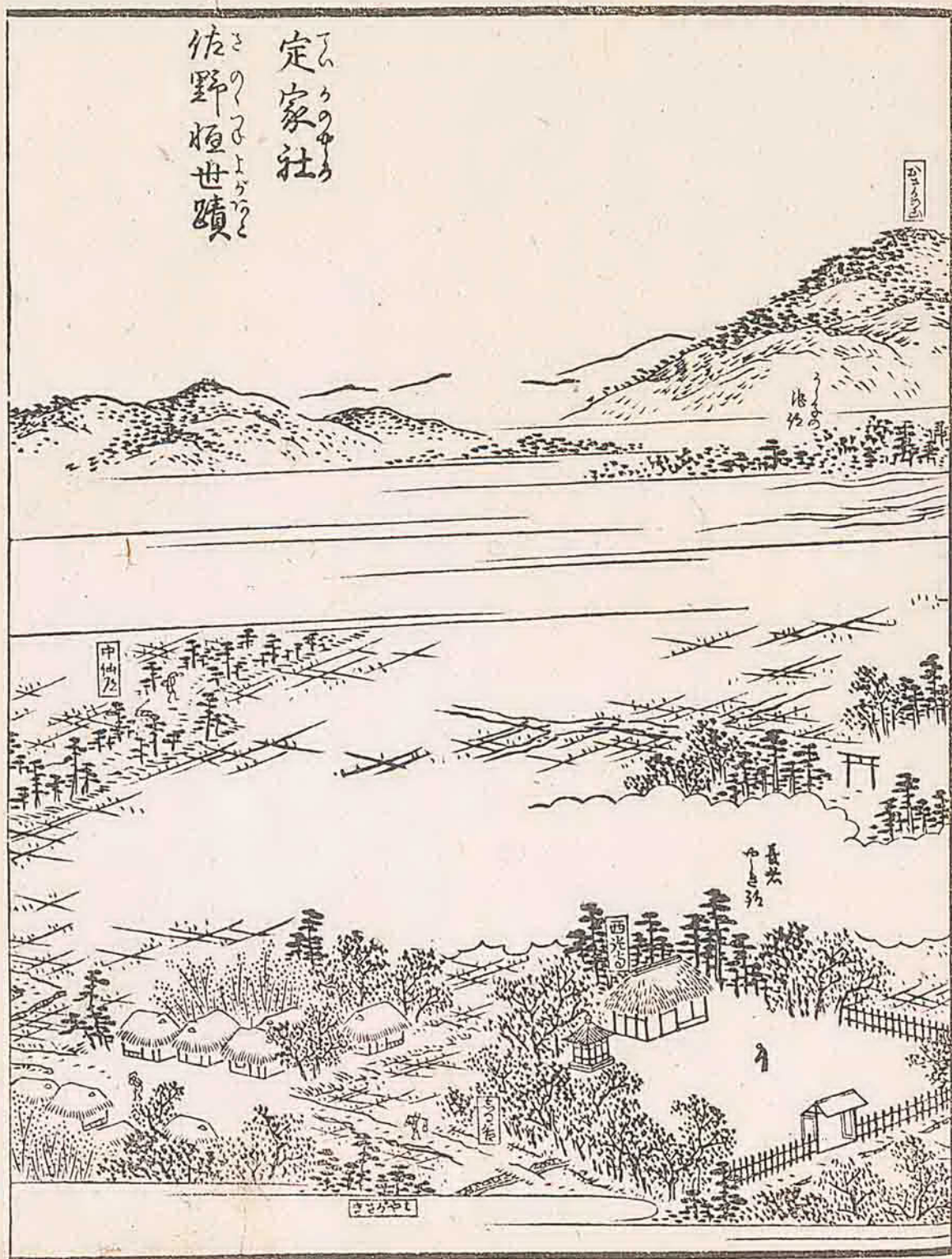


すだ 新田村 釜鉢林の道 妙正岩鼻 妙正の川 妙正の末は
を くる 新田村 釜鉢林の道 妙正岩鼻 妙正の川 妙正の末は
て ありて 両川 麓合 中津村より 足利の 乃あり 赤木山 榛名
山を 赤う 小島 あり 立石 成る 妙正の 張より 妙正の 妙正の

佐野 舟橋 右



定家社 佐野恒世蹟



上列勝頼未入唐攻

園小素哉家宅めり多く盤事をいへりみ綱をさわこれ煮て
絲瓜縹功を焼く緋小織子唐の玄宗を宮中にくる盤事をさしめ
嬪として女工の幸ひおしひ我朝をも應神帝此市代め呉服織
婦の二女ありてお針を教く宮中めいへりおしひ幸あり

勝頼其日の装束め唐衣とて市代の腹巻は後の羽織をきれ
白無織の毛笠をきききんぎろはち土居敷飛ぶ勇卒服又市布
一宮たきま主人の矢面もきききんぎろはち土居敷飛ぶ勇卒服又市布
合多き唐衣とていへり縹と緋中に縹を引退くと道とて縹縹付
へ系に早城戸をきききんぎろはち土居敷飛ぶ勇卒服又市布系込人ど
欲六人を相手に一獅子畜連の怒をきききんぎろはち土居敷飛ぶ勇卒服又市布
左きき唐城門を押破つたきききんぎろはち土居敷飛ぶ勇卒服又市布
縹とて突合つたきききんぎろはち土居敷飛ぶ勇卒服又市布
け場は見捨くる引退り唐衣も成るは兵に伏せしきききんぎろはち土居敷飛ぶ勇卒服又市布

本巻四十二

らねくを得たりや取く返す所は清見中根石黒城も張るは
力を城せ縹服はきききんぎろはち土居敷飛ぶ勇卒服又市布
勝員小織と二の門の内小直や系入土居敷飛ぶ勇卒服又市布
乃を原隼人佐土居敷飛ぶ勇卒服又市布
人と渡合せ張めがら天晴ゆしくきききんぎろはち土居敷飛ぶ勇卒服又市布
此左近も系入るは又市が効効り小衆一と日尾陣と其場小
本だめりきききんぎろはち土居敷飛ぶ勇卒服又市布
縹とて本丸小引へけけ味方も息は休まず丸も系入人と我々
たりる勝頼も系入るは又市が効効り小衆一と日尾陣と其場小
水の手廓れありるは人々おれ小氣とけけ唯堅固ある本丸を系
彼人や勇進むは固安房守も系込りるは又市が効効り小衆一と日尾陣と其場小
寄く水の手廓れありるは人々おれ小氣とけけ唯堅固ある本丸を系
てきききんぎろはち土居敷飛ぶ勇卒服又市布

けきききんぎろはち土居敷飛ぶ勇卒服又市布

新町 上

幸^{かん}迄^と二里^{ふた}崎^{さき}六^む七^{しち}町^{まち}なり

民家相對して巷を打ん

金嶺明神祠

例 糸九月廿九日

祭神素盞烏尊

奉社の左右内外社
権現 榊 榊 榊
天満宮

其外束社食一卒

地豈不熟哉
安民
吾居の氣
金

上野

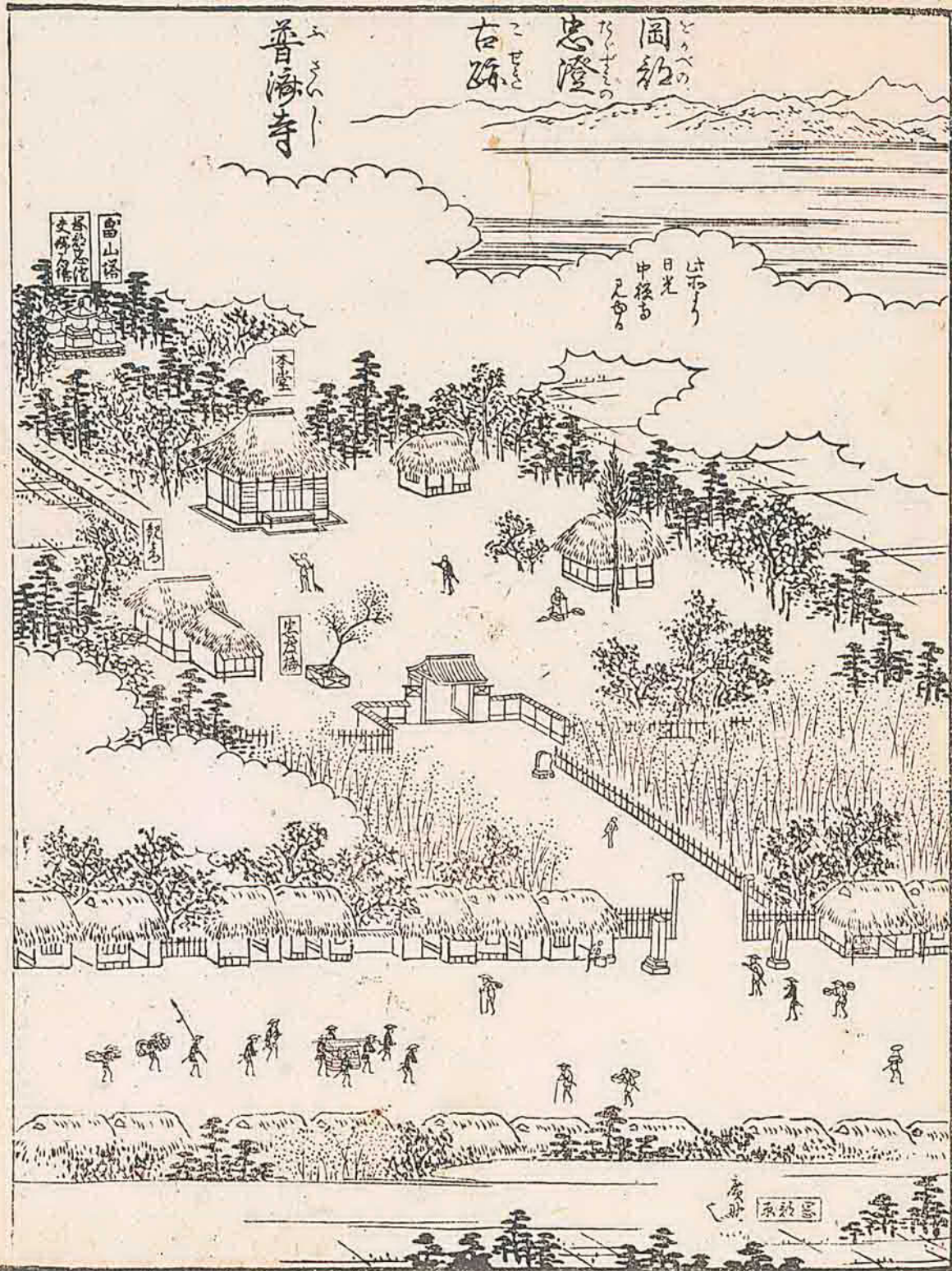
武蔵國場むさしのくにば 遊あそ 張は 本もと

け張^{はり}成^{なり}まゝく町^{まち}人^{ひと}形^{かたち}川^{かわ}を^をつ^つり^りか^かけ^けを^を宿^{しゆく}か^かふ^ふば^ばむ^む石^{いし}神^{かみ}より^{より}わ^わ
左^{ひだり}の方^{かた}丹^{にあつ}赤^さ本^{もと}山^{やま}見^みゆ^ゆふ^ふ家^{いえ}士^し峯^{かみ}月^{つき}形^{かたち}より^{より}け^け所^{ところ}立^た場^ば之^の晚^ふ念^ん寺^に
村^{むら}成^{なり}ま^まく小^こ嶋^{じま}村^{むら}より^{より}け^け所^{ところ}より^{より}母^{はは}も^もこの^{この}道^{みち}あり^{あり}左^{ひだり}の^の森^{もり}の中^{なか}に^に
あ^あまも^も金^{きん}鑽^{さん}の^の所^{ところ}あり^{あり}

源谷まで二里九丁に於て民居之に町をばうり相對し

蒼公そうこうの祇ぎ雲うんの神しん本もとあり六月廿七日しうしちにちあり

南歌を以て僑民堂村以上列國界の標を公達ふ敢不名と



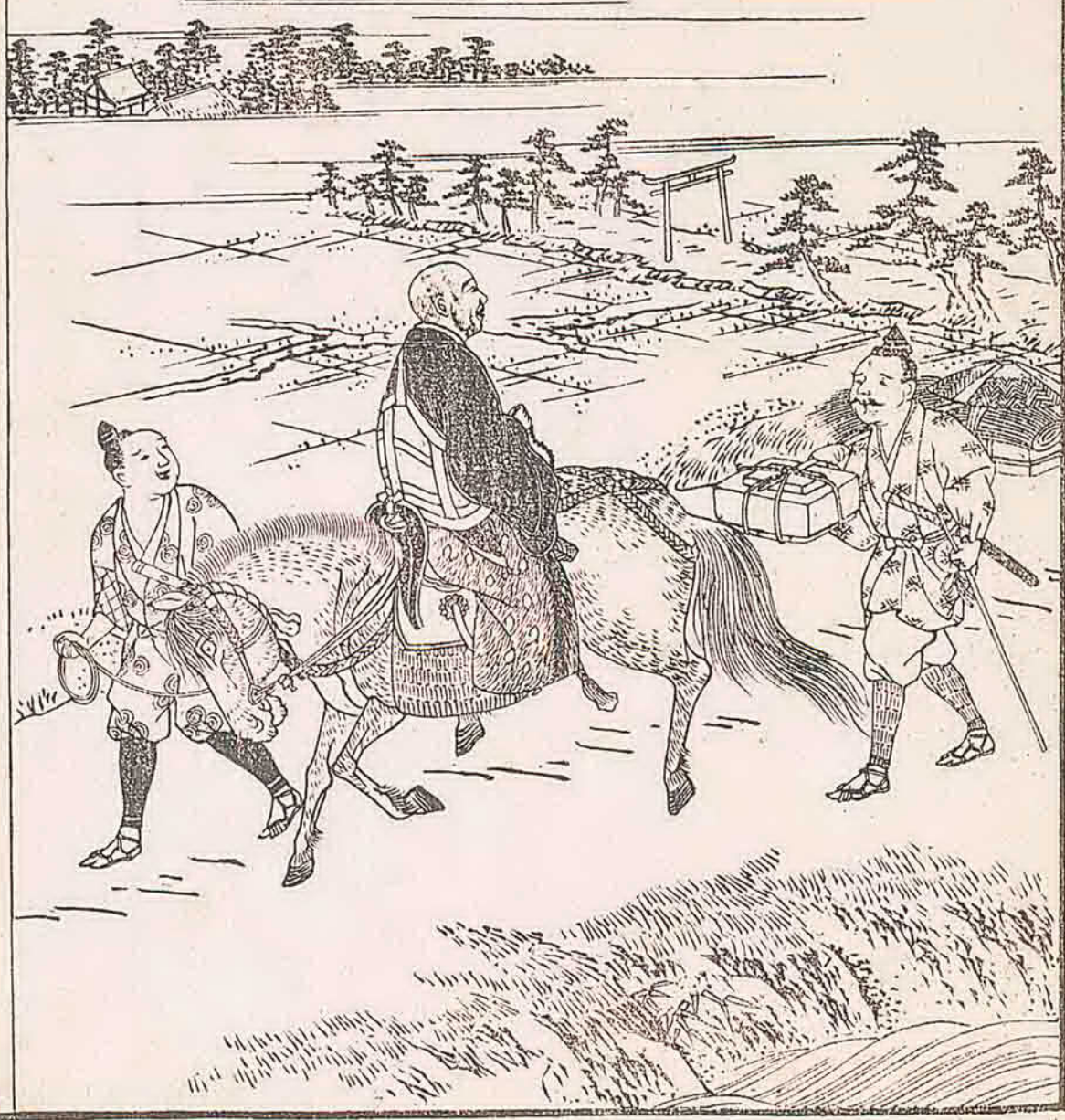
けりし大市あり人教多群集して交易があら幸多し
 それより堀田む小山川常々あり橋あり岡の郷を冠六孫
 をがけしき孫あり

岡部 原 岡部村あり
 岡部 忠澄 古趾 今より岡部村ありむけ比れ文しと
 晋濟寺 岡部村あり孫系曹洞

本尊釋迦二尊佛 忠澄墳 岡部の中あり又支那の本係
 當寺あり 岡部六孫を忠澄け郷に鎮地しとかの禪師
 道徳を威し殿閣を造る幸多し十一面觀音ありび小二百
 軒の親を雕刻して安んず村忠澄より皇世一代敏達天皇の後
 亂たり初と惡源吉義平が属し平治元年十二月廿八日平重盛
 と待賢門より戦ひ大武勇と振ひ事永三年二月七日揚州
 一谷の合戦小平忠澄を討く首級を得しけ故に熟功の貴しとて

岡部村の歴史

蓮生法師を
 金井門入る
 方へ足も向ふ
 東へ下ふも
 尻馬より
 易い道の
 崎人の中



忠度の采地五邑を忠澄が賜ふ忠澄武列終父郡我郡村は岩嶺を
穿ちて石室が宮と自像が石壁と彫外其傍小縁院と建つ
忠澄菴と號をも又武列榛沢郡岡部小縁にて岡部を名乗る
墳墓が築れど忠澄靈神と作るは其外良徒の古墳に
あつて宗祇法師行御のつたは塚といひて懐柔の和を以て

これを向ふ岩が北の古塚小縁の左に此松風を吹 宗祇法師

武
深谷

慈母寺より武里二十町は武六十七町終父郡我郡村は岩嶺を
穿ちて石室が宮と自像が石壁と彫外其傍小縁院と建つ

親音堂

深谷より武里二十町は武六十七町終父郡我郡村は岩嶺を
穿ちて石室が宮と自像が石壁と彫外其傍小縁院と建つ

我佛は入る風を以て東風を吹
りてはれど佛はをこし

此の事を知りては悲しむやうの事

これを見よ

はとあつてや柳堂骨と非あふなり

祖
岡

は武里のゆけは大本の松むき道幅も廣くして妙なり
は府小邊ををれ東方む新部村は立場より筆店あり高
柳をこし後松新田新島村あり極小むかふと市原む
よつて慈母の松より

武
慈母

鳩巢中より四里八町は武三に町民衆相對して巷とあつて
左右も町あり至つて極小むかふと市原む

は慈母島より一島山重忠の旧趾は城のやうに戸より島に

十六里慈母より幸多二里半南の方からを永井へは二里半小

ありこれより無名別當実盛より一町を越えを里半ありは宿

に赤城の神の原よりあり

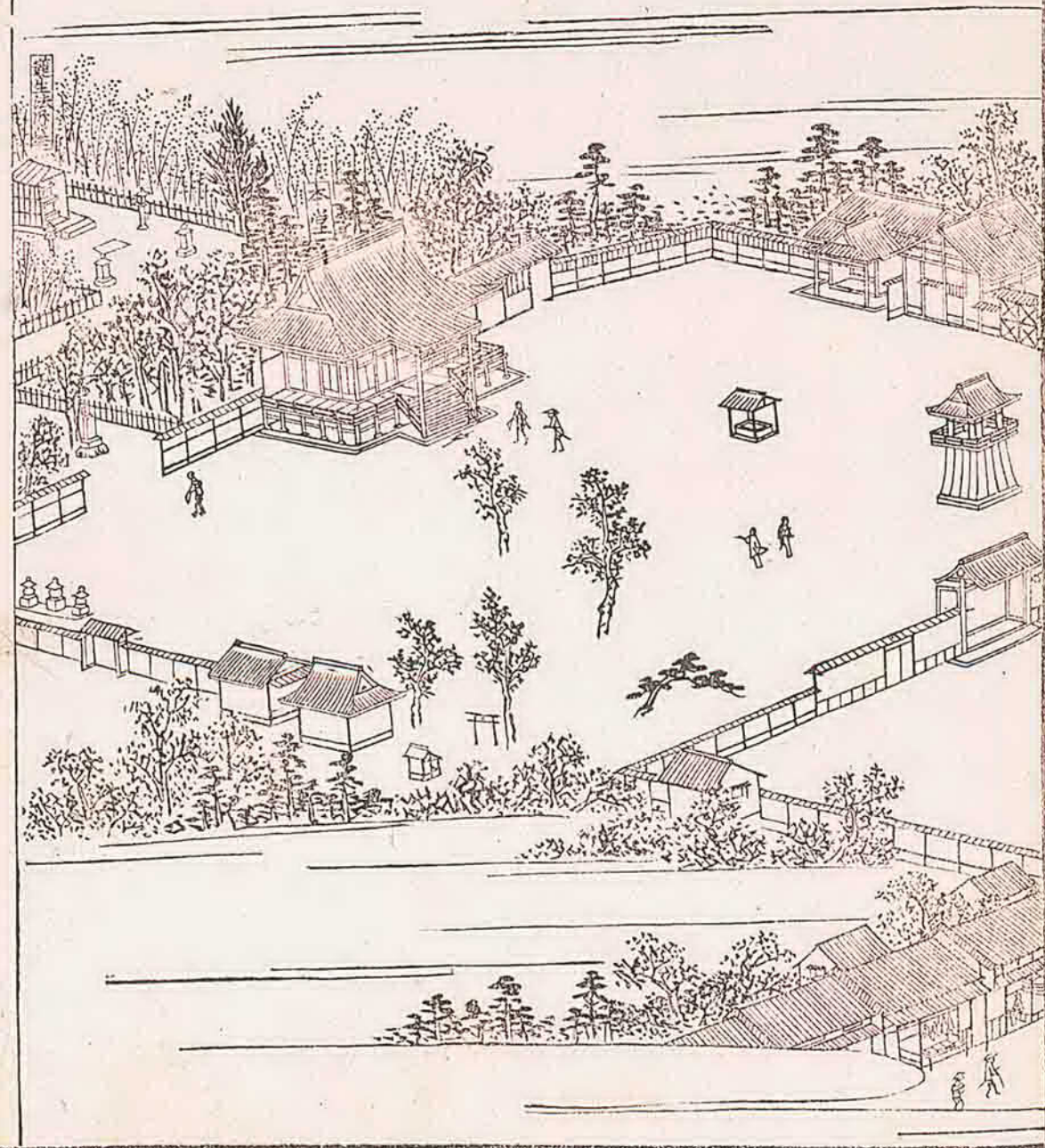
蓮生山慈母寺

慈母の宿中にあり淨土宗

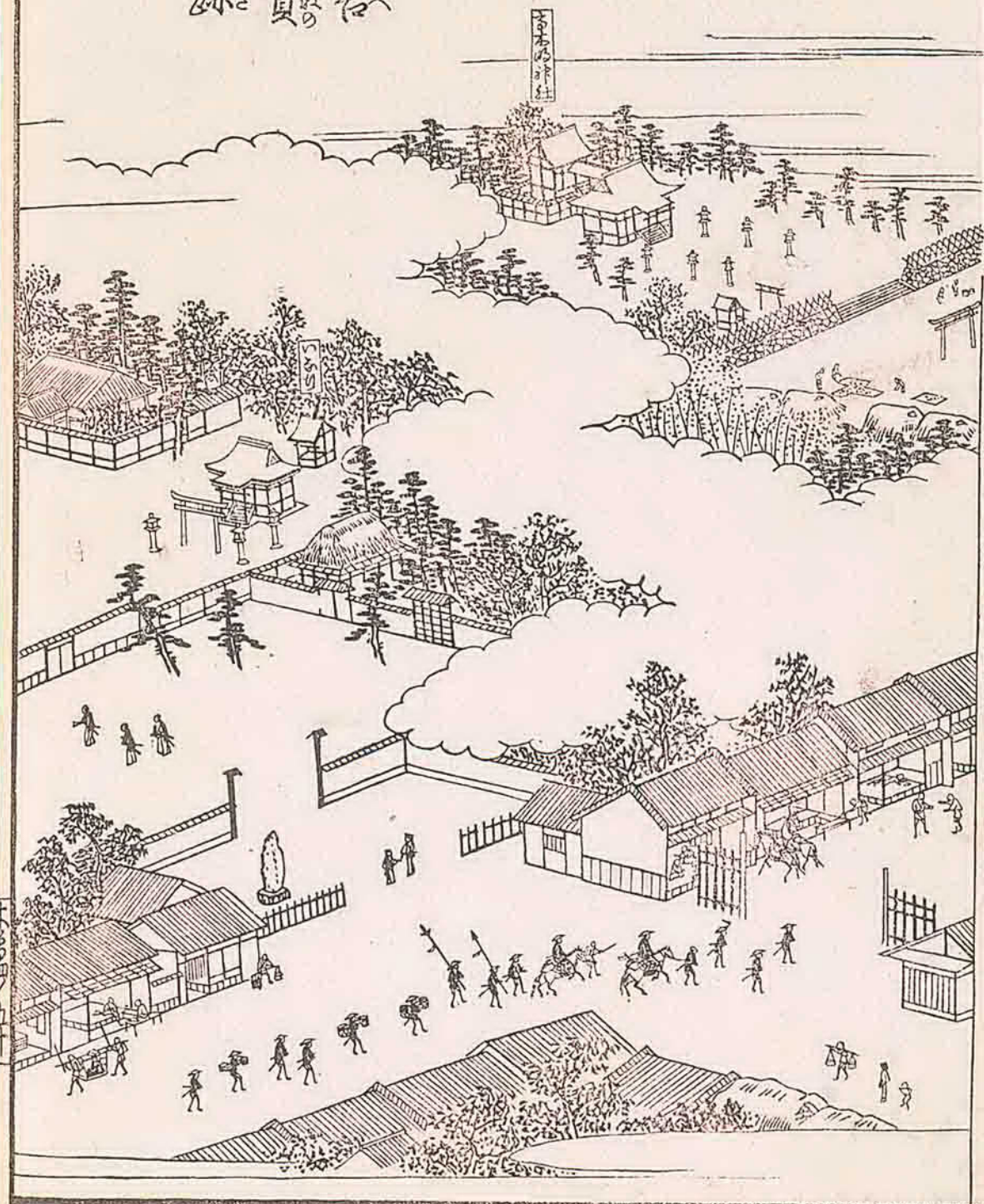
幸尊阿弥陀如来 持念佛の坂東阿弥陀佛の其一なり蓮生

法持

新熊谷寺

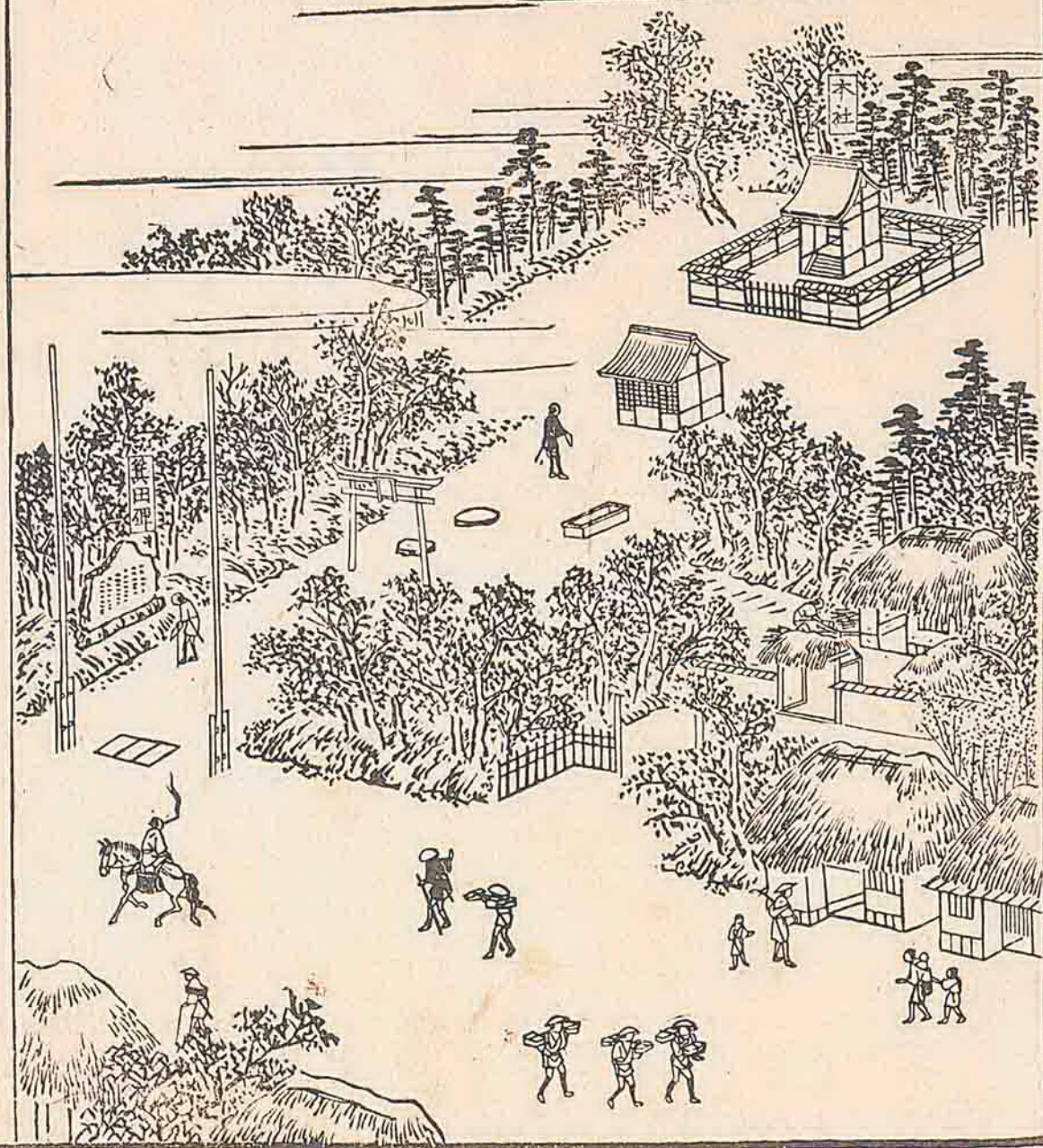


熊谷直實古跡



蓮生佐竹本像 日墓
 抑惣管治帝直實と極武天皇の後周平盛方のふく若冠乃
 とれ開東に赴く久下直光の聲とある成長は序ひ武勇つらざる
 うて都待賢門の合戦より急原を戦平に属し十六騎武者を
 随てしむる石橋山の合戦より本原の恩賞とて右大將頼朝公を
 當ふ鳩の紋付する幕とおゆを其の勲功乃威状は通中て賜る
 其後享永三年 甲辰二月七日按列一名乃合戦より友を交敷盛と
 討く首を賜ふと吾子直家と戦場より見えし一討の想より大敷盛
 其の父母は歎くひをさすあつたをさしり且其を提を吊りひ
 其身馬の衣より生れ後生の思とも思ひておれより後公のひを
 その後建久二年の冬久下直光と鎌倉より移る武蔵國久下
 然否の境れ糸湯の後遠く笠原拂ひ豆列走湯ふりけりや幸年終ふ
 登りて然上への御子とあり二公より合儀の行者とて成ふ事其後

其田村
 八幡宮
 渡邊綱
 舊趾



禮をく元之二年故郷へ帰るなり上人願ふれり自画迎接の
曼陀羅希ふ神自他の御新賜る蓮生を後武列へ下り
附不肖西家の行者とて後初めを西家後本せり馬ゆと譯す
系くは公案せりるを蓮生法作のみに

後云ふと別者云ふ沙はさるふむひて後せり

建永二年九月四日午刻住持とてき佛勅があらうや村裏のほれと
まきせりる果して其日人ふくやよ喜樂聞く異香薫下て眠と
けりく住持とて畢れり後公案人として遠近の老若寄信しひく指
麻のてり紫雲の庵の上より止居半一附修りたりて西家とてきぬ
これ上り住持の靈瑞く後世天正年中幡隨意上人中興起有
今の慈光寺とてあり

鎮守弥三左衛門稲荷の神伴弘法大師凡ゆる直意不斷伝尊あり
て猛敵討魔け陣頭もなり一付慈光弥三左衛門と名を承り速実小

力と流致ひ小勝利とて特小一谷の合戦あり大寺の先陣も向ひ勝と
割りたりひに彼人付離ひ加勢たてきけり後これ不思議さふ其姓名
狐同に常に汝が信むる所の稲荷神と名を承り人々無苦悩三左
と現るるを忽其ありとて隠しり小部居城に宮舎を営みて此と
崇光今尚山名住守とてあり

尚山什寶

放光名號 和歌名號

寄替名號

弥陀三尊 各園光大師 真筆

直實兩持母衣旗名號 日真筆

理書 日真筆

阿弥陀佛 蓮生法作他 僧上寺學善大信正筆附

裸形弥陀 傳來

迎接曼荼羅 蓮生所持

慈光弥三左衛門稲荷 神伴弘法大師他 奉北十一面六臂

蓮生所持及 肉二弥陀三尊書 園光大師真筆

念珠 鐵鈸 紐 以上 蓮生持物

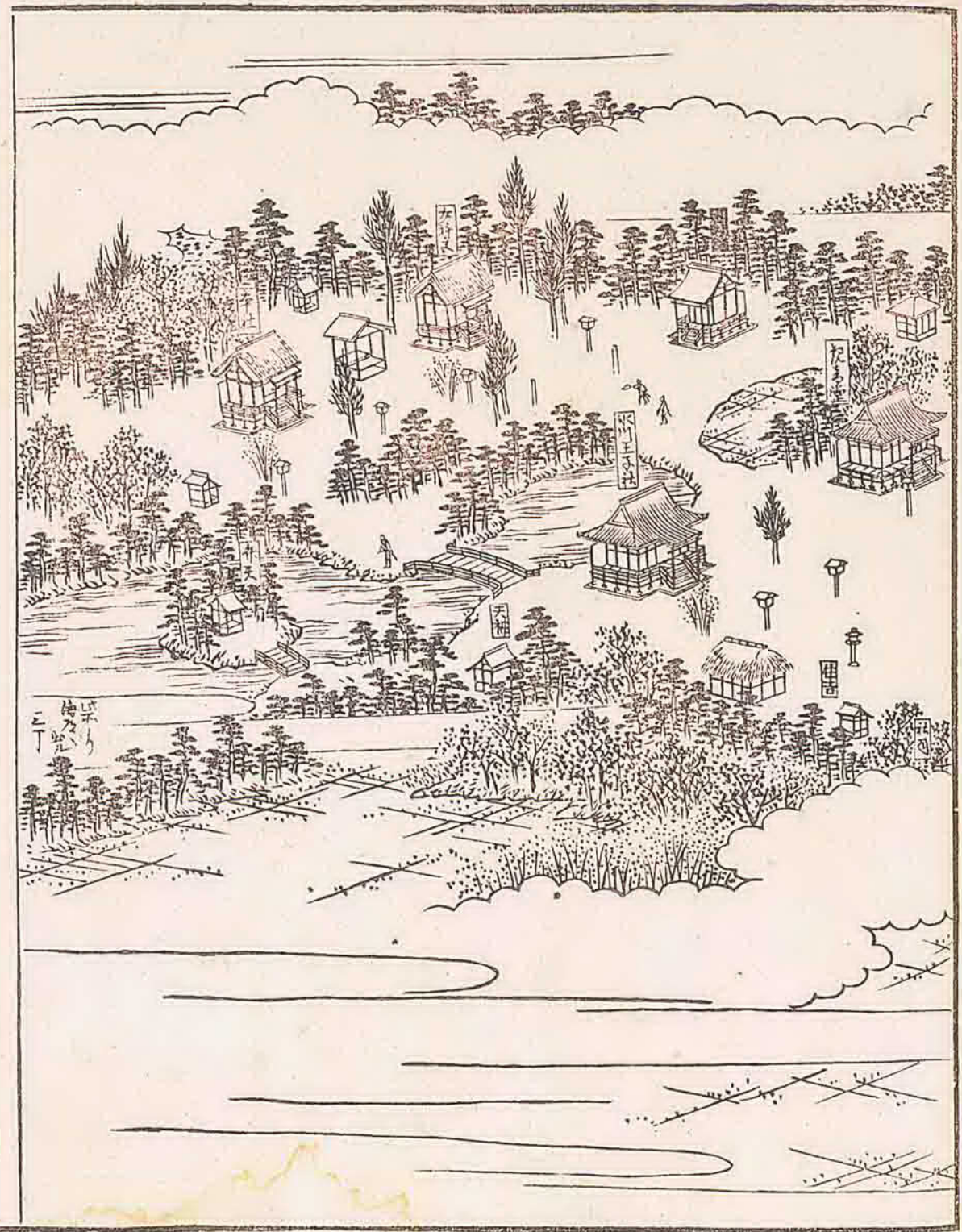
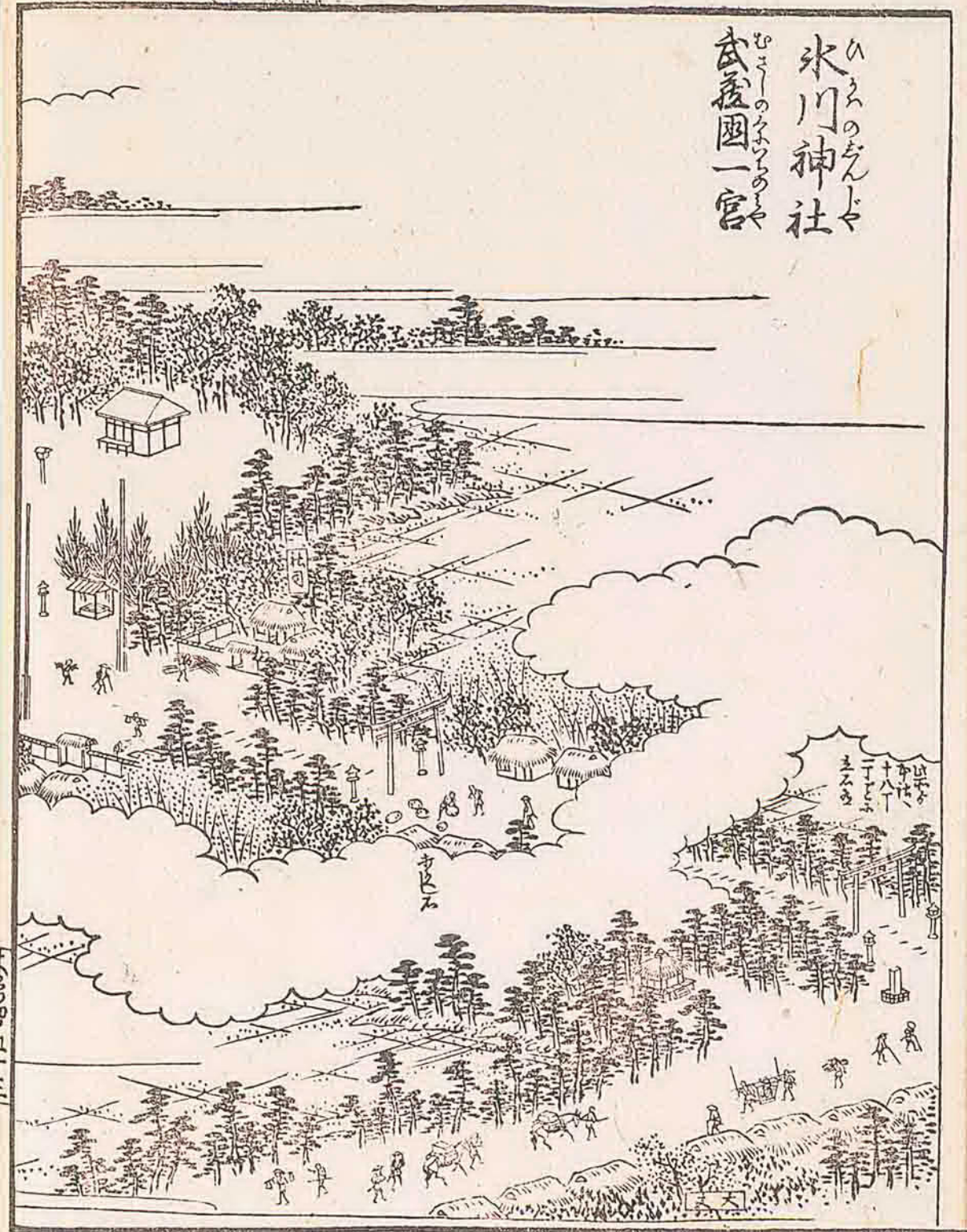
十五遍名號 蓮生筆

送馬画 狩野清信筆 賛大細言實維卿筆

壽牌 火防名號

不斷光佛名號 各 幡隨意上人筆

氷川神社
ひがしのえんじや
ひがしのえんじや
武蔵國一宮



御製 殊數 幡隨意上人所持 子孫に置狀 蓮生自筆

平經盛卿返狀 訓閱集拔書 蓮生所持 運氣考并旗竿等寸法

幕 石橋山の戦功より 騎鞍 蓮生所持

熊谷直實居城 戸田八町村より東行寺より子孫ありん

東鑑云

治承六年六月五日甲辰熊谷二郎直實者匪

勵朝夕恪勤之忠去治承四年追討佐竹冠者

之時殊施勲功依令感其武勇給武藏國舊領

等停止直光之押領可領掌之由被仰下而直

實此間在國今日令參上賜件下文云

下武藏國大里郡熊谷次郎平直實所定補

所領事

右件所且先祖相傳也而久下權守直光押領

事停止以直實為地頭之職成畢其故何者佐

又云

治承六年五月廿四日

汰毛四郎常陸國奥郡花園山楯籠自鎌倉令

責御時其日御合戰直實勝萬人前懸一陣懸

壞一人當千顯高名其勸賞件熊谷郷之地頭

職成畢子々孫々永代不可有他妨故下百姓

等且承知敢不可違失

治承六年五月廿日

久下

吹上

箕田

久下吹上 熊谷次郎平直實

久下吹上 熊谷次郎平直實 伯母筆

久下吹上 熊谷次郎平直實 伯母筆

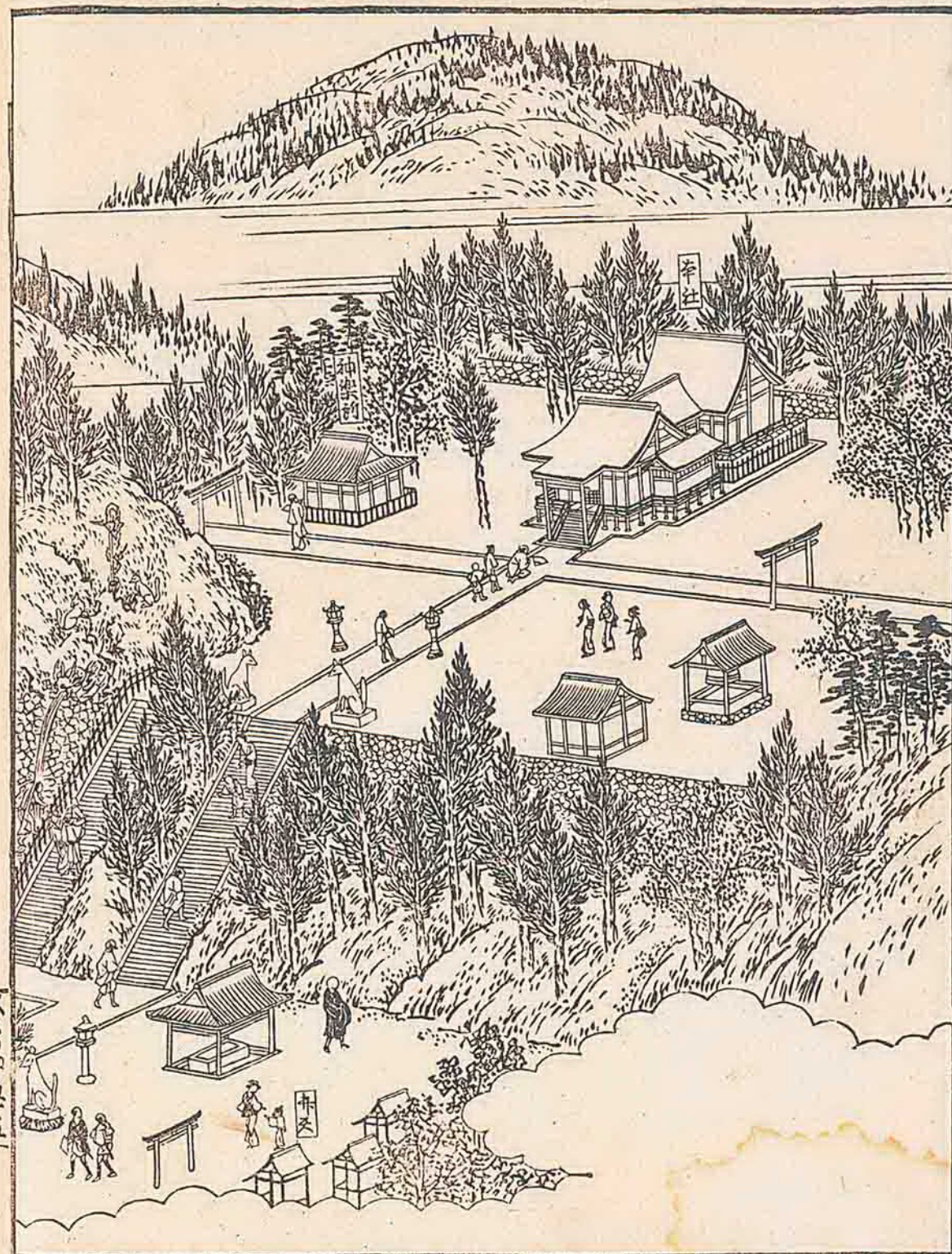
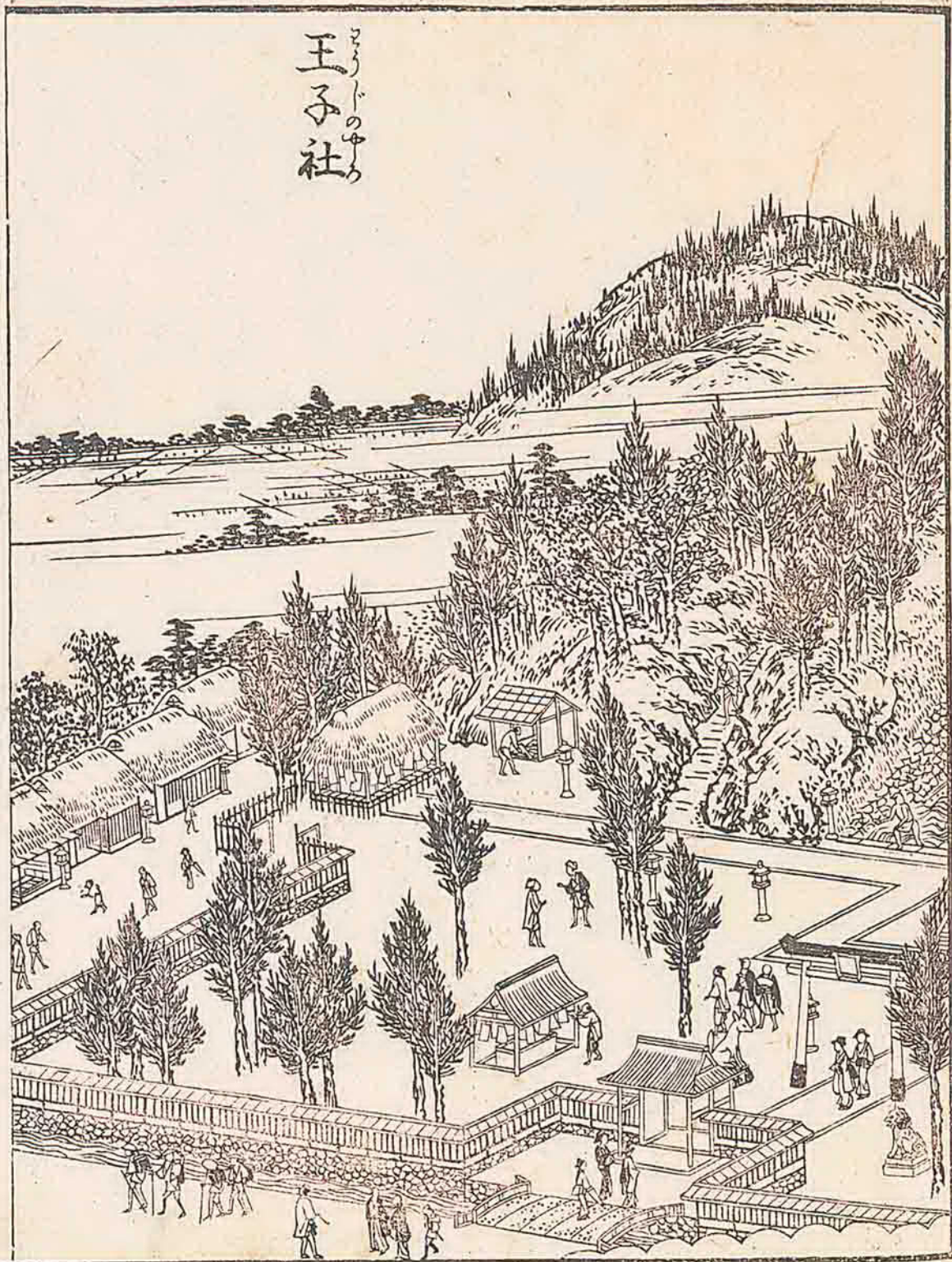
久下吹上 熊谷次郎平直實 伯母筆

久下吹上 熊谷次郎平直實 伯母筆

久下吹上 熊谷次郎平直實 伯母筆

久下吹上 熊谷次郎平直實 伯母筆

王子社



武 鴻巣

桶川まで一里二十町 高野三河 民家相對して巷を
 あり其路散在して俗に「高野」なる宿あり葛城山神の御所あり
 又大木の杉松大竹の林あり左の方に鍛冶屋あり日光への道あり又
 三つ勝願寺といふ浄土宗十八檀林の一寺あり東に三つ勝願
 成る上田村は薬師堂あり又浅間宮あり又高野山あり又
 神の祠あり又門寺あり又高野の道あり又桶川の路あり
 桶川 上尾まで二十町 高野三河より民家相對して巷を
 浄念寺といふ寺あり又高野の道あり又桶川の路あり
 け歌城より所屋村あり此方より高野の道あり又桶川の路あり
 この月より雷電の多しあり又高野の道あり又桶川の路あり
 あれより上尾の駅あり又高野の道あり又桶川の路あり
 大宮まで二里八町 け歌城より高野の道あり又桶川の路あり
 高野の道あり又桶川の路あり又高野の道あり又桶川の路あり

武 上尾

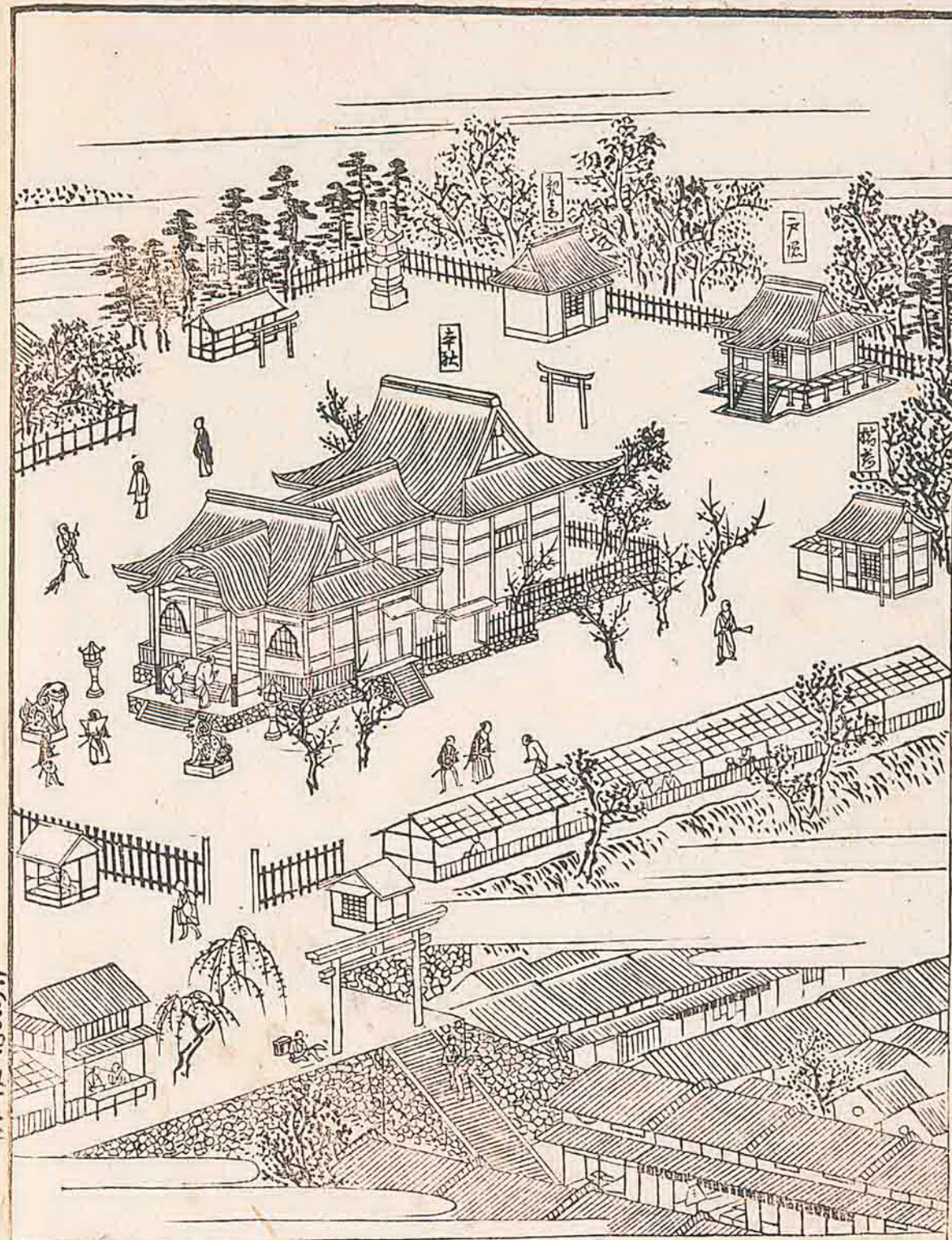
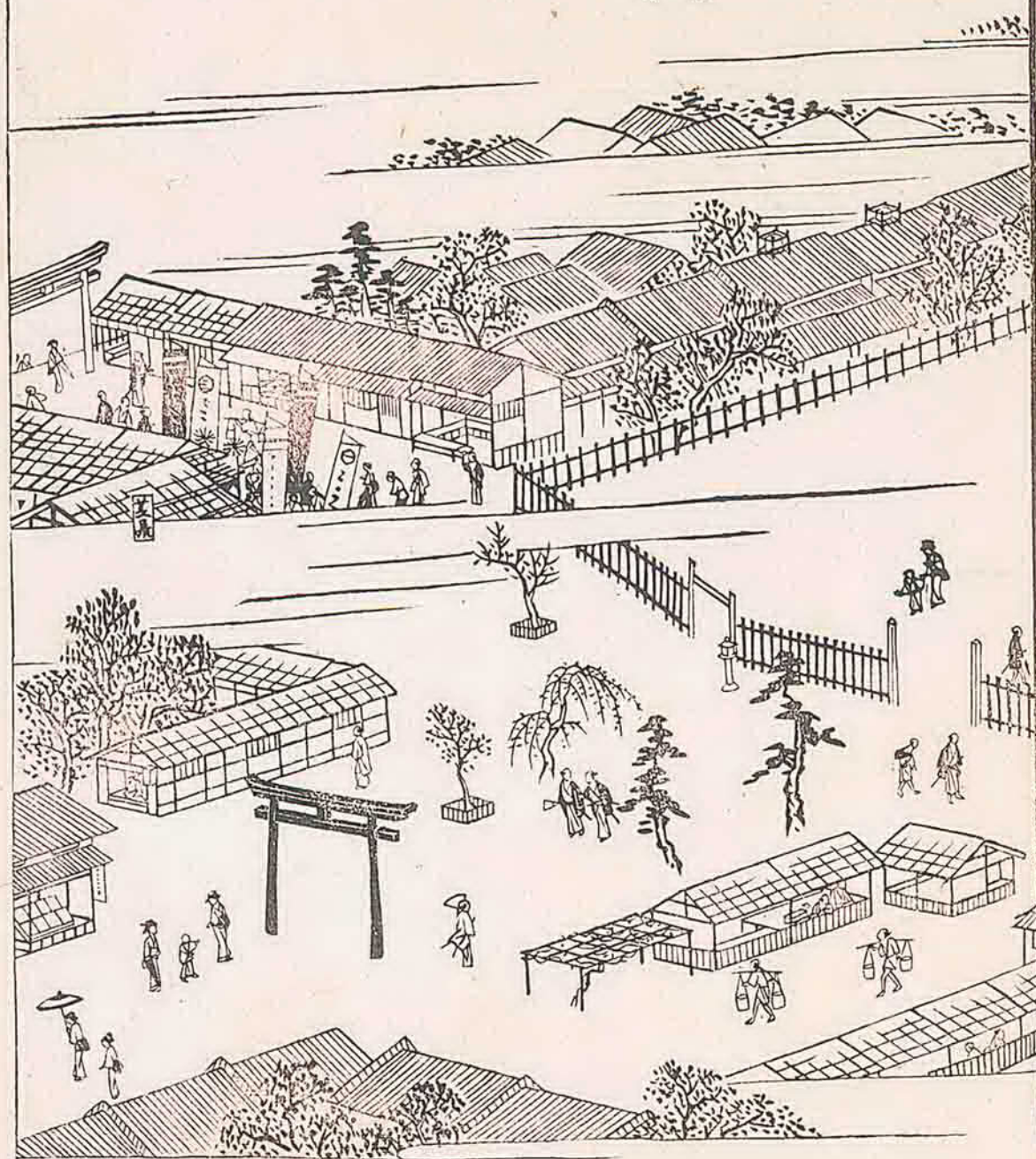
武 桶川

武 大宮

浦和まで一里十町 宿あり又高野の道あり又桶川の路あり
 東光寺といふ寺あり又高野の道あり又桶川の路あり
 氷川神社 大宮の路あり又高野の道あり又桶川の路あり
 祭神 素盞鳴尊 け歌城の生土神
 女耕社 桶田郷を奉祀
 五山社 大宮の路あり又高野の道あり又桶川の路あり
 金鑽社 手摩乳 足摩乳の余
 氷川王子社 神池の傍あり又高野の道あり又桶川の路あり
 末社 住吉社 布留社 神明宮
 神樂殿 池の東あり又高野の道あり又桶川の路あり
 不動堂 月所あり又高野の道あり又桶川の路あり
 吏當社 高野の二之宮あり又高野の道あり又桶川の路あり

武 氷川

ゆーま
湯治
天神社
てんじんのかみ



中ノ小辨敷天を安に神は森然として並樹の松原一帯を十八
町其中に神主山井角井等居住一社領三百石例祭は六月十
五日すべし並國の大社なりて消人陰晴を嫌はば不絶の事あり
氷川社を以て府をふまきし道ともみか並社を勧修の神神なりとぞ
あつたなり

大宮原 野原の田三十町許あり中程より急場の桑畑ありこれ松戸六圃といふ
甲斐武蔵下野田老上列伊香保
なりやあさかりふ見くより

夏も雲あふ士り減間も鼻乃さる

馬明

針ヶ村 赤土合村ありは所よりを平野なる所なり

蕨中の一里半ひが北は小月溪宮又楠の角あり
空晴るるとはさるる上も溪間ふ見ゆ

調神社 浦和の南寄にあり是表式内
焼米飯 向ふとむく小焼米と表す
と焼飯ありとふく

中れ米や麻きく人々も

半残

浦和はきく岩むと白もて村移をせ村通りは其越也
将見の中はありわびる村移とく藤の都あり

蕨 板橋まで二里八町は驛民居六七所あり旅り
戸田川二十四町あり

名を因むはびさるり中れ里女う那

秀曉

け驛をすれとえりて飛の野系なり戸田村ありは川端方
子安の釋迦の坊と街道あり

戸田川 川上より入間川へ

此河をさるる志村よりさるる少くは坂あり下り小桑原有

又北花坂をさるるあは村清水村ありは蓮沼むらへ

藤吉橋荷の角一海ありて又小坂ありとく堀切坂より板橋の

驛あり





江戸日本橋まで二里は狭く中仙道の東橋より十町許あり
 所々小瓦懸店あり形々紅粉を懸く花替はうけぬ
 美艷をかける格子のうらゆれ客客とあそび光るあれを
 板と真なるも多し

頼政 思ひこもるもやたれぬ川上流と玉章

平塚昭神社

板橋の異の方平塚山あり
 別当安樂院城官寺と号し

系神

八幡を即義家賀茂次郎義綱割羅三郎義光の三霊を
 奉じて三社とす

禮塚

平社の後方あり義家の禮を
 奉じて三社とす

王子社

王子村あり別当と
 東光院金輪寺とす

系神

熊野三所神

寛永十一年 官家より市造を林道春其記を書け例永七月
 十三日寺中十二坊踊をぬ

稲荷社

金輪寺の支社あり

飛鳥山

珠生の頃と雲と見と散る花は秘も神をえさるぬ
 白ひふ露れ夜ぬれにけり家為成をくもさるるに

垂風花襲

風をえと動ぬ雲と見ゆか花の香るるの盛と 蘇島

富士権現

駒込あり富士社あり幸郷あり寛永年中は池よ

神明社

別当南村山太泉院
 文治五年源頼朝公の深創く其後荒廢し小綱のそ有りと

田細八幡宮

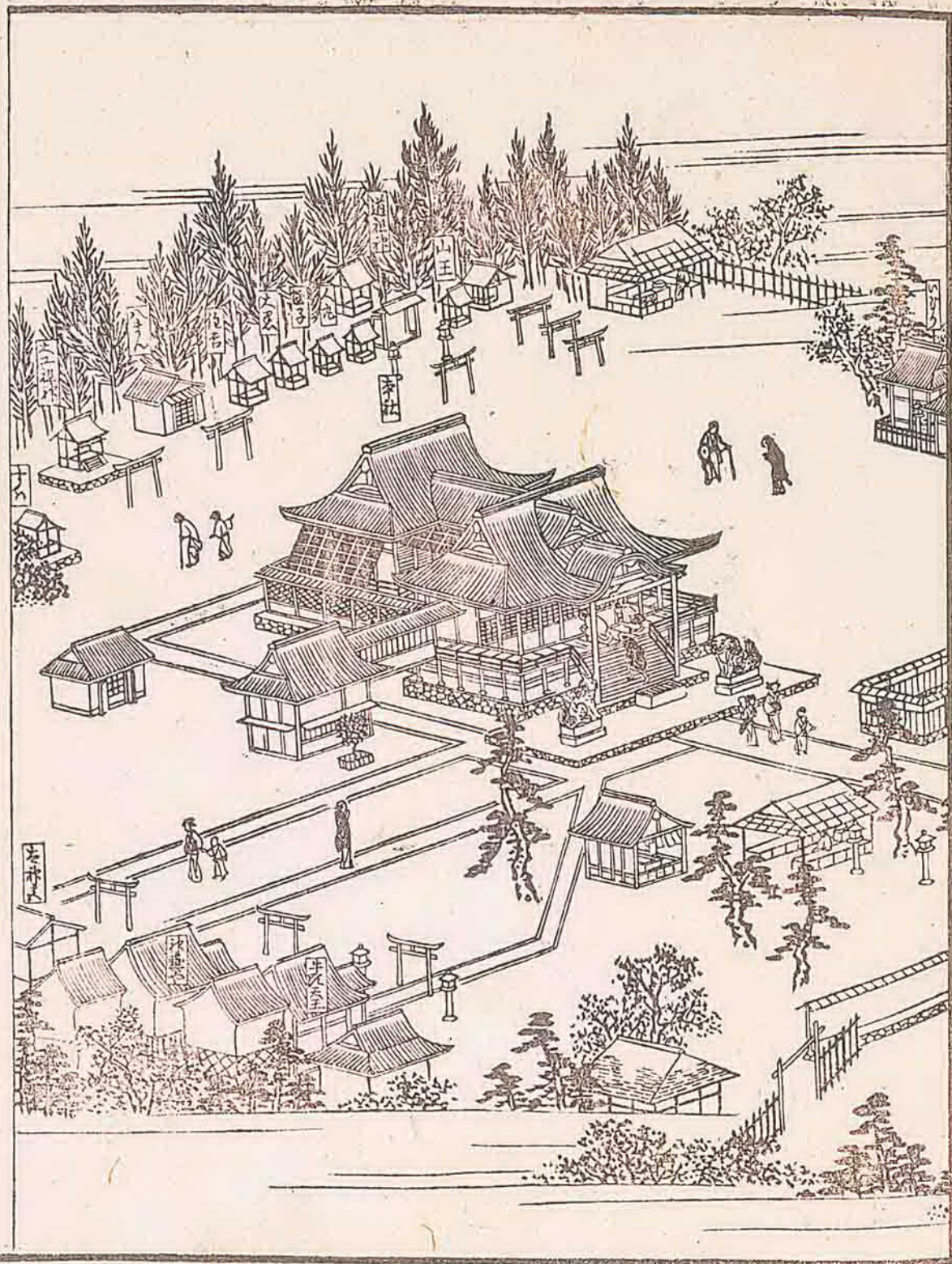
別当白龍山東覺寺

は宮も駒込神明宮と同時小頼朝の勅修也

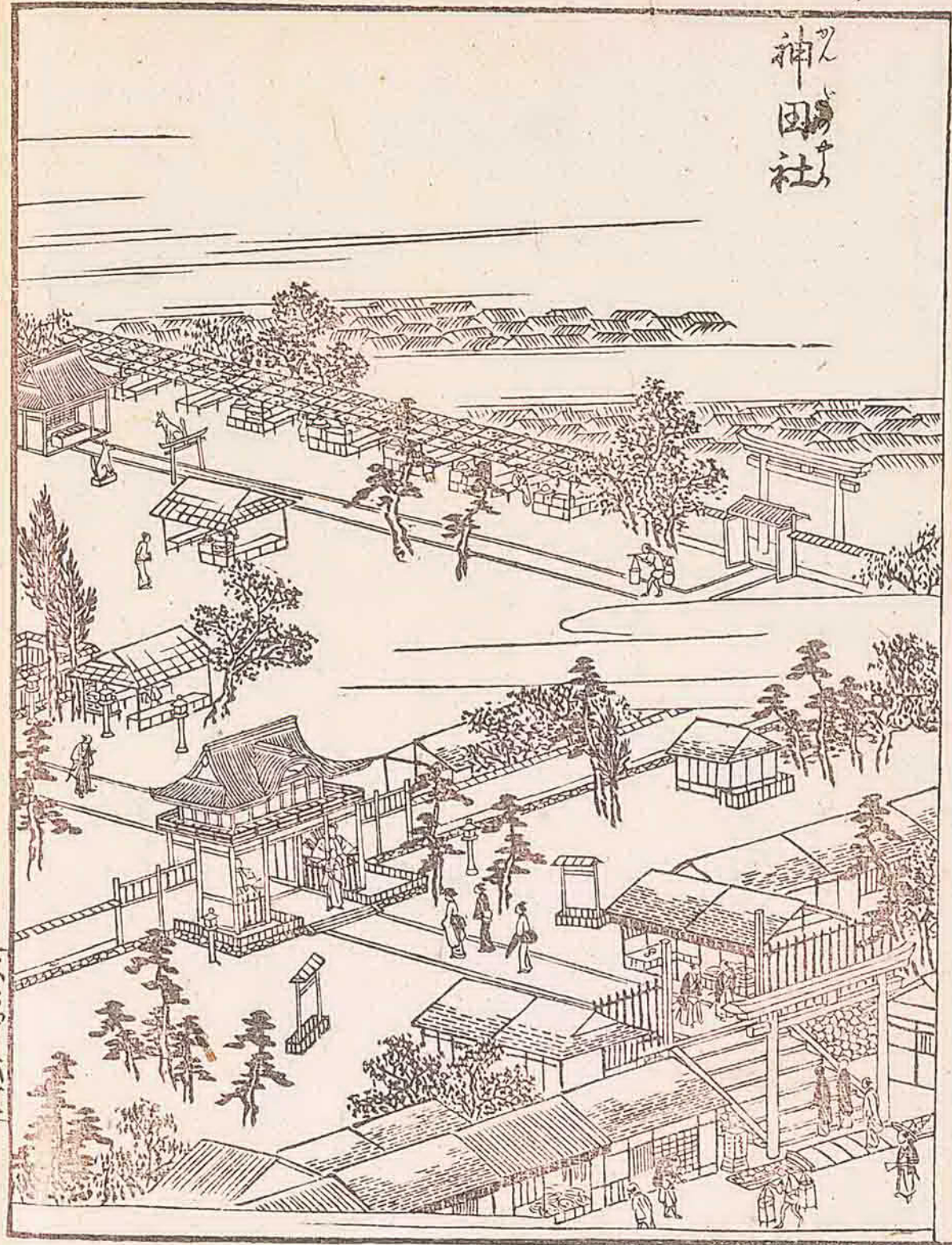
根津社

谷中あり神主伊吹氏

系神 素盞烏尊大己貴命 蛭子命 三所系あり



神田社



當社と今の社より東の方へ本社の坂れうふあり文明
年中を田道儀の宗創て室永三年の以 家より新ふ
社遷すありて其祭の極月六日
市遷すありて其祭の極月六日
市遷すありて其祭の極月六日

湯

天満宮 湯ありあり
別當北野山喜見院

系神 菅公 文明十年を田道儀草創に
系日二月十日 十月十日より

戸隠明神 地主神ありあり

笹塚稻荷社 社ありあり

妻 意稻荷社 湯ありあり
神主村幸氏

系神 日本武尊 橘姫 倉稻魂神 三度公紀
日本武尊を奉へて久しと東海より遷して妻意一や修れ

神田

社 神主芝崎氏
系神 大己貴命 神田とてを神宮へ初遷を神田
村より大己貴命と五穀の神より久しと東海より遷して妻意一や修れ

將門の靈を祀りて久しと東海より遷して妻意一や修れ
意稻荷社 今も系神の時に神興をいかに所ふあり

新幣ありとて元和二年當所小遷あり久しと東海より遷して妻意一や修れ

牛頭天王三前 神ありあり

住吉明神 神ありあり

人丸明神 神ありあり

末社 神ありあり

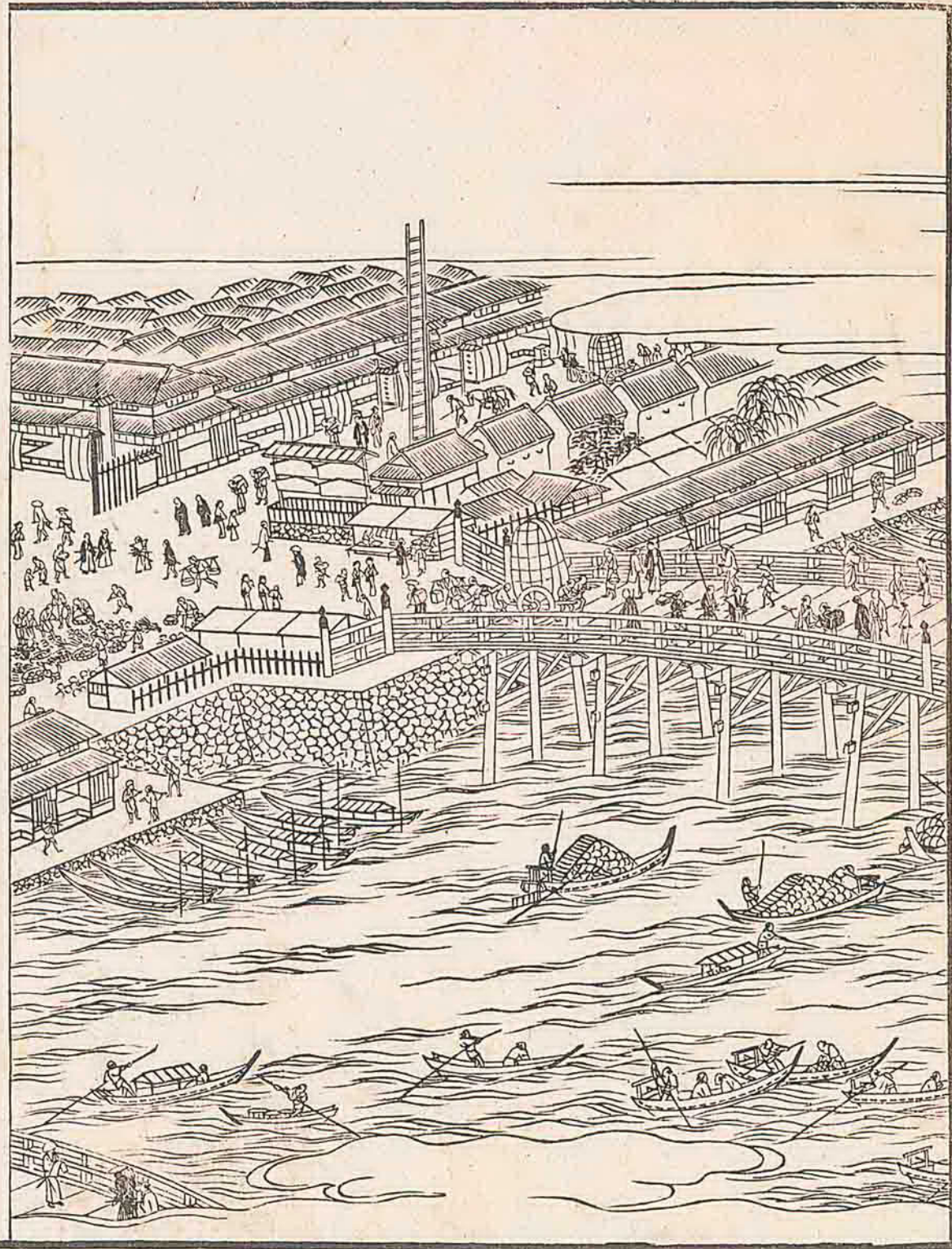
聖

堂 湯ありあり

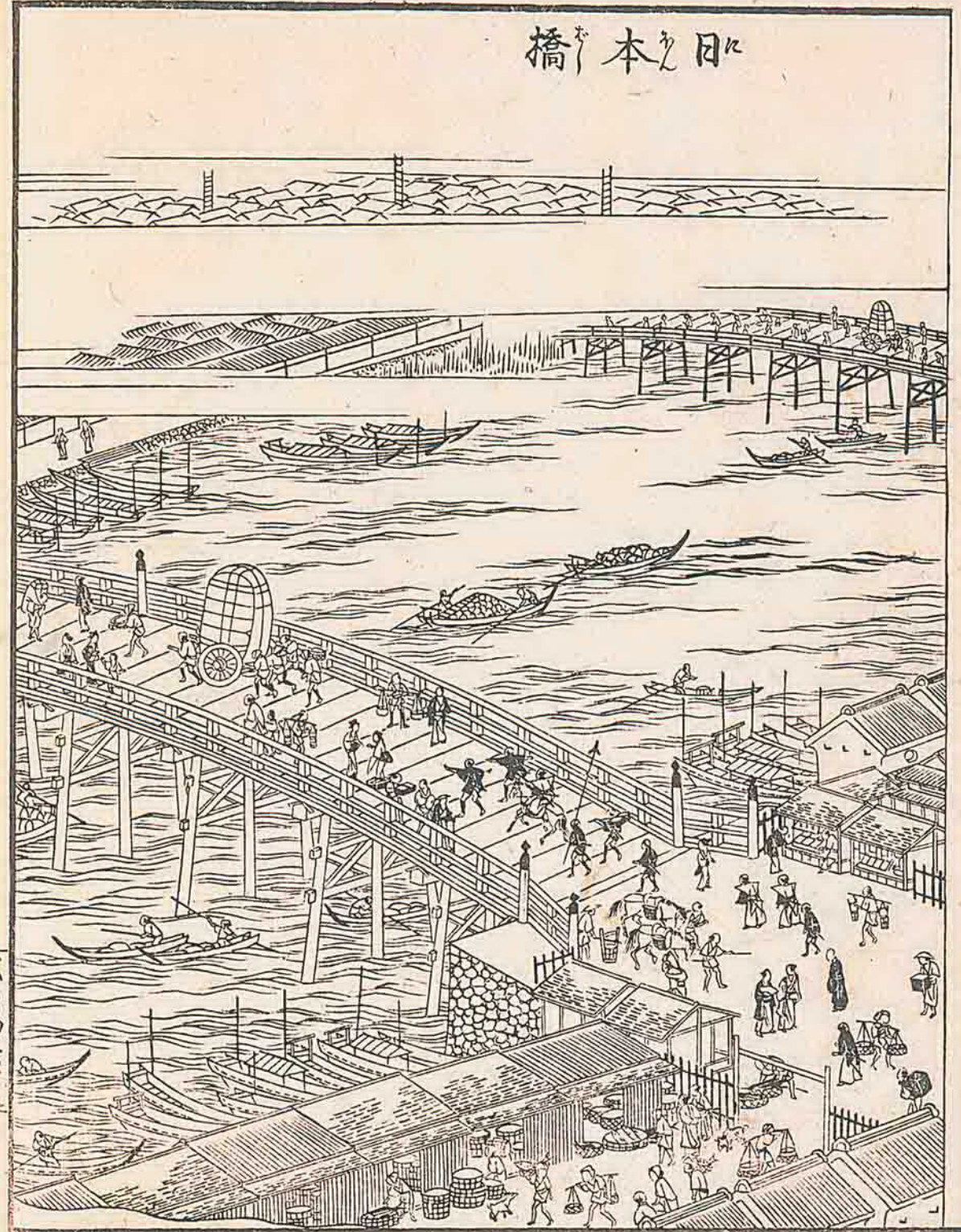
文宣王 十哲を祀り

行せ給ふ其後 光仁天皇寶龜三年右大臣吉備公秋實の具
成勢く礼典器物等敬令小同色し給ふ事續日本紀見たり

奉朝秋實の式と享日未明五刻外郊社令其屬及び廟司を率
て先聖の神座以廟室の内中楹の間と設く先師顔子と首座



橋本之町



少一岡子騫より以下丹有までを降く四座より文宣王の東に
 設て西を上座より又季路より已下子夏までの五座は文宣王の
 西に設く東に上座より降く十一座何れも南より向ふに其外魚
 教等と六衛府よりこれを進む陳設の品々執事の負教何れも延
 喜式に詳あり

板橋をさくたふ川越道あり右に難司谷護國寺四谷あとの道
 あり直より平尾村をさく巢鴨町より三馬場の常店ありたり
 六地藏堂ありこれより駒込の町よりさけいせの窪にさく竹町の左
 の方より山崎親の邸より路をぬく退かぬあつたと岩淵日光道に
 右幸郷筋よりより日幸橋より一里より道一森川宿に通て幸郷
 六所あり又所目より神田の邸より路あり神田廣徳庵の方より陽徳
 王神の中より松島より右の方より至聖堂筋遠橋の序見附をへて
 十町餘をさく日幸橋よりより

日本橋

此處の祓宿より一兩日ほどさく路よりり橋く船ありて
 ぐんぐの沢路にさく路の本宿より新より至聖堂筋より神橋乃
 邸より香取の神社息栖の神と路より廣徳庵より船より下りて交
 易である三日逗留して神社名所が先づり又船よりて延方にはさく
 板久牛渡をさく麻生瓜屋より路並より宿より玉造をさく小川府中
 庁より瓜屋より小畑より十二塚と登りて筑波山より宿よりまより路に
 の路路より日光山よりより中経寺二荒山より登りてさく
 路の書より記に

新古 武蔵野より木村の果までありて風のまよふらん 通光
 日 仍末をさくひよりれ武蔵野より木村の果までありて風のまよふらん 掃政大政店
 新後拾 如北指所よりさくひよりれ武蔵野より木村の果までありて風のまよふらん 藤系長秀

432
序
175

本卷四十六

